

機動的な8専門委員会で

「支部強化」「流通制度」も新たに

日遊協をより実効ある組織に改編するための戦略会議が定例理事会に先立って開かれ、専門委員会設置規程(案)と専門委員会の運営

に関する内規(案)が提示された。これをもとに審議した結果、新しいシステムの大筋がまとまり、直ちに理事会に報告された。3月の第6回定例理事会までにさらに細目を詰め、委員等の委嘱作業を急ぎ、

新年度から新システムをスタートさせる予定となっている。

「委員会—部会」制を廃止

この日の戦略会議には深谷会長をはじめ、副会長、理事、支部長、専門委員会委員長、同副委員長、部会長、副部会長、専務理事、常務理事の計23人が出席した。

現行のシステムは、08年4月にスタートした3専門委員会・7部会制。明日の産業を創る委員会の下に次世代創生、社会貢献・環境対策の2部会、明日の遊技機を造る委員会の下に未来遊技機、健全化推進の2部会、明日の経営を考える委員会の下に広報、優良店制度、消費税の3部会が設置された。とくに部会の中堅・若手が主体で、日遊協に団体入会している同友会からも参加し、特定課題について審議して上部の専門委員会に報告する。隔月開催の専門委員会に対

して、部会は毎月随時開かれる身軽さが特徴だった。しかし、部会活動が活発な半面、専門委員会が審査機関のような受け身の形にな

って機動性と柔軟性に欠けることが指摘され、昨年9月の第3回定例理事会で再検討することが承認された。これに伴い10月以降、効率化のための戦略会議が開かれて新しいシステムを検討してきた。

委員会の上14つの「室」

提示された規程案と内規案によると、新しいシステムの活動主体は8つの「専門委員会」。その「専門委員会」を2つずつ束ねる形で、上部に4つの「室」が置かれる。「明日の協会創造室」の下に「広報委員会」「支部強化委員会」「明日の産業創造室」の下に「人材育成委員会」「社会貢献・環境対策委員会」「明日の経営創造室」の下に「経営改革委員会」「流通制度

委員会」「明日の遊技機創造室」の下に「遊技機開発委員会」「遊技機健全化委員会」となっている。専門委員会は、「広報委員会」「社会貢献・環境対策委員会」「遊技機開発委員会」「遊技機健全化委員会」のように現行の「広報部会」「社会貢献・環境対策部会」「未来遊技機部会」「健全化推進部会」がそれぞれスライドしたイメージのものもあるが、「支部強化委員会」「流通制度委員会」のように新たな構想で新設されたものもある。委員会は概ね月1回開催され、必要に応じて内部にプロジェクトチームを時限的に設置して、課題解決のスピードアップを図る。委員数の基準は、協会創造室所管の委員会が10人、産業創造室、経営創造室所管の委員会が15人、遊技機創造室所管の委員会が20人となっている。

「室」は室長と1〜2人の副室長からなるコンパクトな組織で、室長、副室長は所管の委員会活動に参画して進行状況を管理し、調整・指導にあたる。また、業界横断的組織の利点を生かすため、室長、副室長はホール、メーカー、販社などからバランスをとって委嘱さ



新組織のあり方で熱心な討議を続けた戦略会議

れる。さらに各室に担当副会長が一人ずつ委嘱され、室長、副室長と連携して委員会活動の進行状況を掌握管理し、適切な指導にあたる。室長、委員長は日遊協正会員から委嘱されるが、委員は日遊協会員に加えて団体入会している同友会からも委嘱する。また、会長の承認を得れば非会員への委員委嘱も可能となっている。

総合的な「政策検討連絡会」

これに加えて、総合的な調整と適切な進行管理を図るため、会長、担当副会長、支部長、室長、委員長で構成する「政策検討連絡会」が置かれる。連絡会は概ね年3回、理事会開催日に合わせて開かれる。また、初めての試みとして、委員会は1年間の基本方針と事業計画、予算をそれぞれ策定することになっている。

8 専門委員会のおもな調査審議事項は以下の通り。

〔広報委員会〕遊技関連事業の一般国民への理解を深める方策▽広報誌の活用▽パチンコ・パチスロ論文・作文コンクールの実施▽ホームページの拡充

〔支部強化委員会〕会員拡大活動の企画実施▽会員交流事業の企画実施

〔人材育成委員会〕体系的な人材育成方策▽優秀な人材確保方策▽店長等講習、マネジメント・カレッジ等の企画実施

〔社会貢献・環境対策委員会〕社会貢献活動の企画実施▽店舗の地域社会との共生活動の企画実施▽省エネ対策の研究推進▽ホールの環境浄化対策の研究

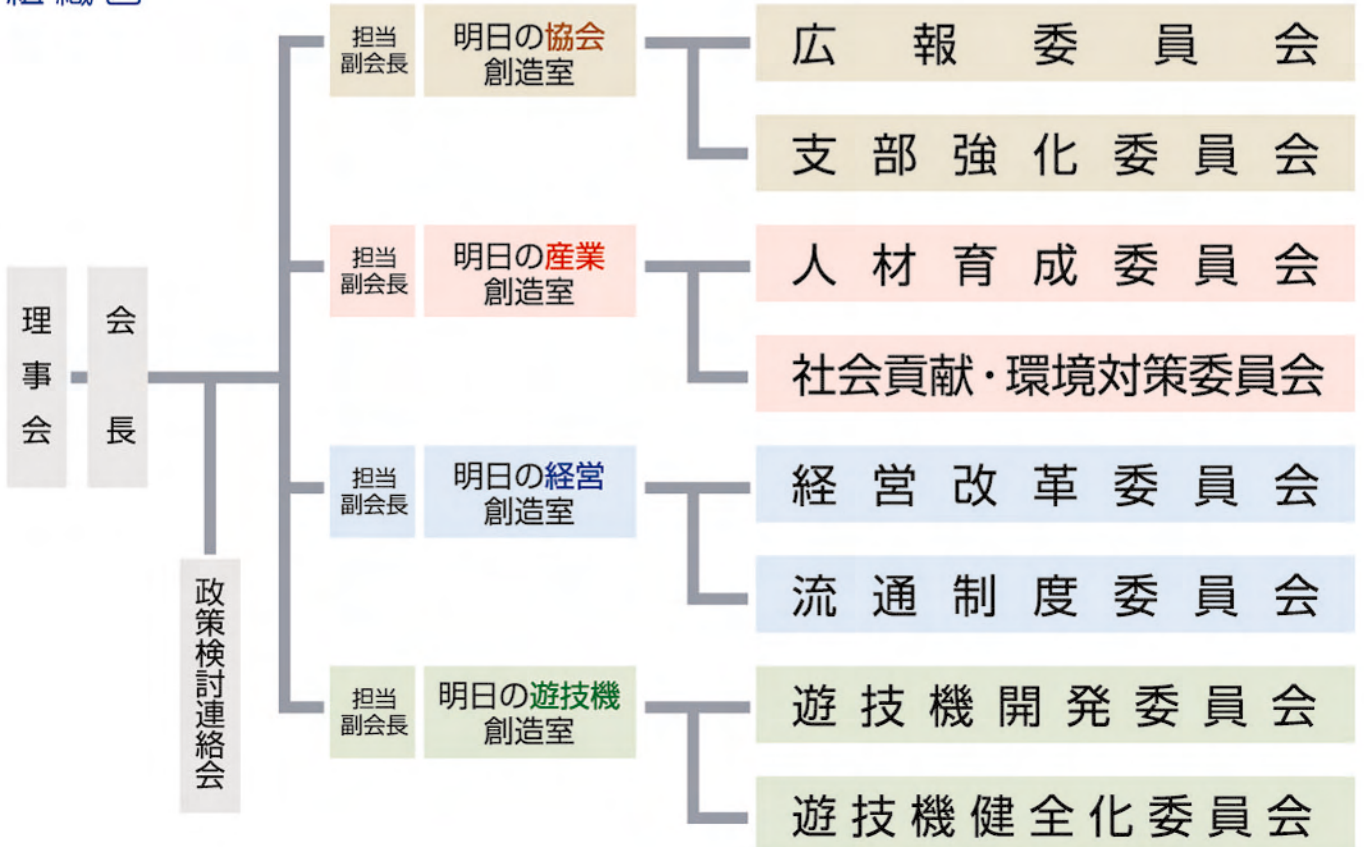
〔経営改革委員会〕新たなビジネスモデル、ホール経営の創造▽消費税についての検討▽店外オンラインの研究▽リスクマネジメント・コンプライアンスの研究

〔流通制度委員会〕中古機流通・認定制度の将来像の研究▽取扱主任者制度の検討▽リサイクル問題の改善

〔遊技機開発委員会〕ゲーム性豊かな新たな遊技機の開発▽遊技機のコストダウン方策の開発▽パチンコ・パチスロのアンケート調査の実施

〔遊技機健全化委員会〕遊技環境の健全化推進方策▽電子申請システムの研究▽不正対策勉強会の実施

組織図



1月14日
グランドアーク半蔵門
出席正会員116社

兼次民喜、秋田光勇の両氏 新理事 を選出

第5回日遊協定例理事会に引き続いて1月14日、グランドアーク半蔵門で臨時総会が開かれた。出席正会員116社、委任状提出正会員131社で、同日現在の正会員数(385社)の過半数を超え、定款第23条の規定により臨時総会は有効に成立した。



新役員2人を選出した臨時総会

定例理事会で承認されたことに伴い、兼次民喜(株オリンピア)、秋田光勇(株エース電研)の2氏の新理事選任が諮られ、承認された。2理事は国家公安委員会の承認を受けてから正式に就任する。任期は前任者の在任期間で、当面6月の通常総会までとなる。

このあと、理事会で審議された重要な議案として、戦略会議の内容、有識者会議のメンバーの2件が報告された。

2人の新理事は、臨時総会後の記者会見でそれぞれ次のように抱



新理事に就任した秋田光勇氏(左)と兼次民喜氏

負を述べた。
持てる力を出し切って

兼次理事「勉強不足な点がまだいっぱいある。諸先輩のご指導を仰ぎながら、持てる力を全部出し切って、業界発展のために努力していきたい」

いろいろな視点から

秋田理事「補給装置をホールに販売する会社なので、これまでは売ることばかり考えて社業に努めてきた。このたび日遊協理事という立場になったので、いろいろな方向の視点を考えながら、沈滞している業界に元気を取り戻させるように尽力していきたい」

生活安全局長に樋口建史氏



警察庁は1月18日付人事異動で、勇退した異高英生生活安全局長の後任に樋口建史(ひ

ぐち・たてし)警視庁副総監・犯罪抑止対策本部長事務取扱・警務部長事務取扱(写真)を発令した。樋口氏は東京大学法学部卒。78年

、警察庁入庁。和歌山県本部長、警察庁国際一課長、同刑企課長、北海道本部長、警察庁政策評価審議官兼犯罪収益関連対策・国際担当審議官、警視庁警務部長を経て、09年3月、同庁副総監・犯罪抑止対策本部長事務取扱、同年6月、同・警務部長事務取扱。愛媛県出身。56歳。

2月の行事予定

3日(水)	11:30~	日遊協ボランティア団体応援基金助成団体審査
4日(木)	13:00~	広報部会
	15:30~17:30	明日の経営を考える委員会
10日(水)	15:00~	社会貢献・環境対策部会
17日(水)	13:30~15:30	貯玉補償基金理事会
	16:00~17:30	第4回戦略会議
18日(木)	13:00~15:00	健全化推進部会
	15:15~17:45	明日の遊技機を造る委員会
19日(金)	13:30~	不正対策室
23日(火)	13:30~16:00	セキュリティー対策委員会
24日(水)	14:00~17:00	高原の風
26日(金)	14:00~	有識者会議(グランドアーク半蔵門)

日遊協新年祝賀会

「業態を変えるべきとき」深谷会長がポジティブ宣言

日遊協の新年祝賀会が1月14日、第5回定例理事会、臨時総会に引き続いてグランドアーク半蔵門で開かれた。正会員、賛助会員をはじめ、理事・相談役・特別会員などの役員、第3期高原の風プロジェクトのメンバー、業界誌関係者など約250人でにぎわった。

冒頭、深谷会長は「正月の営業はいかがでしたか。厳しいという人もいれば、まあまあという人もいます。これからが怖いという人もいます。でも今年は、つらい、厳しい、暗いというようなネガティブな言葉を使うのはやめましょう。今年こそ明るい遊技産業をつくるということを、ぜひみんなでやりたい。全日遊連を中心にこの業界を盛り上げるために日遊協が協力できることを、この1年かけて一生懸命やっていきたい。」

今日の日経新聞にこんな記事があった。大黒柱とはどっしりと不動のものが、大手スーパ、イオンの岡田家の家訓は『大黒柱に

車を付けよ』だという。会社を支える店も、人の流れが変われば移せと、変化への即応を説いている。また、埼玉県川越市の亀屋という有名な和菓子屋さんの家訓は、『家は世の進歩に順ずべし』として、状況を合わせて打つ手を変えることを説いているそうだ。私はこの遊技業界も業種を変えることはできないが、業態はぜひ変えるべきだと思う。それにはきちんとした考え方と同時に、全日遊連、日工組

日電協、全商協、回胴遊商、自工会始め全団体が一緒にこの業界を盛り上げていくことが大事だと思っている」と挨拶した。

来賓として出席した平沢勝栄衆議院議員が、総選挙での自民党の敗北を例にとりながら、「国民の信頼を得ることが何より大事だ。遊技業界はずっとそのために努力してきた。これからもその期待を裏切らないように努力を続けてほしい」と祝辞を述べた。

臨時総会で承認された次次民喜、秋田光勇の2理事が紹介された。

第3期高原の風が現況報告

昨年9月に行われた第3回遊技産

業マネジメントカレッジでのグループワークで、金賞、銀賞を受賞したグループから選ばれた特命チーム「第3期高原の風プロジェクト」(8人)が登場し、リーダーの深澤正則氏が、「パチンコの社会的認知度の向上」「遊技人口3000万人」というプロジェクトの目的に沿って、戦略を具現化するために行っている討議の現況報告をした。

団体入会している高濱正敏同友会代表理事が乾杯の発声をし、祝賀会が始まった。

(第3期高原の風プロジェクトの関連記事は18〜20ページに)



久しぶりに会った深谷会長と後藤信行中国・四国支部長はこぎげん



話し込む(左から)福井章近畿支部長、阿部泰久副会長、山田久雄副会長、山口雅弘九州支部長



久しぶりの再会。話かはずむ(左から)正司正英元会長、日野加代子トリックスターズ・アレア代表、正司孝輝副会長



ユーモアたっぷりシメのあいさつをして照れる大久保副会長に大喜びの(左から)深谷会長、吹浦正理理事、高濱正敏同友会代表理事